

令和7年2月10日

長野市長 荻原 健司 様

長野市歴史的風致維持向上協議会
会 長 高見澤 秀茂

長野市歴史的風致維持向上計画（第2期）の令和6年度進行管理・
評価及び計画の変更について（答申）

令和6年7月23日付け6まち第146号で諮問のありましたこのことについて慎重に審議
した結果、当協議会の意見は下記のとおりです。

記

- 1 計画の令和6年度進行管理・評価について
令和6年度進行管理・評価に関する意見は、別紙のとおりです。
- 2 計画の変更について
計画変更の内容については、別紙のとおり了承します。

令和6年度 長野市歴史的風致維持向上協議会 答申（別紙）

1 長野市歴史的風致維持向上計画（第2期）の令和6年度進行管理・評価及び計画の変更について、了承する。

2 意見等

（令和6年度 第2回 長野市歴史的風致維持向上協議会 意見等とりまとめ）

No.	意見等	回答
1	<p>（1）－9、「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業について、合併20周年記念事業の一環として、地元中学生による観光客への資料館の展示ガイド体験を実施したことにより、入館者数が前年度、令和5年度の2,361人から350人の増につながっている。この取り組みを参考に、他の事業でも何かできることがあるのではないか。</p>	<p>毎年10月には、大室古墳群まつり実行委員会の皆さんと協力して大室古墳群まつりを開催している。このような事業を1つ1つ積み重ねながら、文化財の活用を進めていきたい。</p>
2	<p>（2）－3、弥栄神社の御祭礼屋台巡行支援事業について、数年前、建築士会ながの支部では、大工さんたちに集ってもらい弥栄神社の御祭礼屋台の解体や組み立て実習会をトイゴ広場で行った。人手や担い手が市全域で不足する中で、お祭りを背負っていく連携をしないとお祭りを保存していくことが難しいのではないかと考える。そこで、ソフト事業に関し、今まで行ってきたことから、もう1歩広げて何か工夫できるのではないか。</p>	<p>この提案については、実行委員会などと協議し、検討していく。</p>
3	<p>（2）－1、無形文化財支援事業について、以前、松代の大門踊りの伝承者が少なくなり、そのオリジナルの踊りが踊れなくなったときに、記録映像を見ながら復活させた取り組みがあった。伝承者を育てることも一義的に大事であるが、事前策として映像記録を残しておくことが重要ではないか。</p>	<p>来年度、一般財団法人地域創造から助成を受け、篠ノ井の三十三燈籠の映像記録を作成する予定である。祭礼や伝統芸能など、措置を講ずべき文化財については、記録映像を計画的に撮影していきたい。</p>

4	<p>(3) - 3、旧松代駅跡地周辺環境整備事業について、来年度の解体が決まりつつあるという説明があった。現在、駐車場のバス停留所は松代中学校の生徒が待合として使用している。この場所は松代城下町の玄関口に位置し、国の史跡である松代城跡に合ったたたずまいが必要であることから、旧松代駅舎解体後、修景的な対策を含めた代替の待合所が必要ではないか。</p>	<p>来年度、バス待合所について仮に駅舎解体の予算がついた場合、既存施設で雨よげができる仮整備を検討している。今後の道路整備を含む周辺整備の際は、武家屋敷など周辺の町並み景観に十分に配慮する。</p>
5	<p>(3) - 3、旧松代駅跡地周辺環境整備事業に関連し、地元及び庁内関係課と打ち合わせを行ってと書いてあるが、松代の観光や今後の活性化のための全体図をどこで作成しているのか。全体的に何かテコ入れしていかないと、地域が活性化する状態にならないと思う。どのような目標に対し、到達点などはどのように計画しているのか。</p>	<p>松代地区は、城下町としての歴史的資源などの強みが多く存在し、さらに文化財や観光に関するイベントも実施してきたが、十分な状況ではない。どの課に集中させて取り組むものではなく、この歴史的風致維持向上計画を通じて、関係課との連携を強化しながら、インバウンドを含め、さまざまな角度から研究や情報発信を行い、現在実施している各事業をより充実させ、効果が上がるように取り組み、地域の活性化を図っていきたい。</p>
6	<p>4、歴史的風致を生かした観光振興、地域活性化に関する事業について、松代が目指すべき目標を持つべきだと思う。これまで公的資金を投入し、道路整備や古墳周りの自転車道、遊歩道などを整備してきたが、何かプチン、プチンとそれぞれの事業が分断され、根本的に目指すところに到達できていないと思う。松代が持っている多くの資源を生かすために、どういうところに行くというものを新たに付け加えた方がよい。</p>	<p>松代地区については、歴史ある建物や祭礼、NPO法人による活動などにより松代のまちづくりを進めてきた。市としても、いろいろな事業について地元と相談しながら進めているが、様々な意見もあり、どのような形がよいのかは、丁寧に意見交換しながら進めてきた。これまで住民自治協議会などと意見交換をしながら進めてきたが、今後も様々な課題に対し、住民自治協議会や観光協会などと丁寧に意見交換しながら、松代のまちづくりに取り組んでいきたい。</p>
7	<p>文化財保存活用地域計画認定記念事業シンポジウムの門前まち巡見では、市の学芸員の皆さんが案内役となり、若い方の参加も見られた。若い方に伝えることが大事であり、公民館・交流センターでの歴史講座事業など、今まで長期にわ</p>	<p>公民館交流センターで行っている講座は、平日の日中に行うものが主であり、参加いただけるのは60代以上の方が中心になっている。各公民館や交流センターは、若い方に参加してもらえよう、学生の長期休暇の時期や、土曜日や</p>

	<p>たって継続してきたやり方を考える時期に来ているのではないかと思う。若い方に参加してもらえそうな講座や取り組み方に変えていく必要があるのではないか。</p>	<p>日曜日に開催するなど工夫をしてきており、少しでも若い方の参加が増えることを期待している。</p>
8	<p>(3) - 1、戸隠地域道路美装化・電柱電線類移設等整備事業について、仁王門前の歩行者の数が非常に増えていると報告があった。道路美装化や電線の地中化等の整備をしたにもかかわらず、車が多く通るようであれば全然意味がないので、歩行者がゆっくり歩いて観光ができる環境を作っていただきたい。特に善光寺御開帳やイベントがあるときは、警察や他の機関と検討してもらい、善光寺周辺を車両通行止め等にする事で、整備した成果が目に見えて表れるのではないか。</p>	<p>善光寺周辺の道路美装化や無電柱化事業で整備した箇所は、現状では車が通れる状況になっているが、歩行者がゆっくり歩ける環境を作ることが望ましい。一方で、荷さばきなど、商売されている方が最低限通行する必要があるため、関係機関や地元の皆様とも協議しながら、慎重に検討していく。</p>
9	<p>各地域で高齢化などが進み担い手が不足する中、長い歴史を紡ぎ背負われた方たちの思いを引き継いでいくため、長野市で人をつないでいくようなフォローアップができないか。中学生とか高校生、信州大学、県立大学、清泉女学院大学の学生の皆さんを絡ませるようなコラボ事業を年に1回でも2回でも実施することで、若い人たちの心を打つことができるのではないかと感じており、何かそういう事業に取り組めないか。</p>	<p>学生が連携することによって、地元や実行委員会の皆さんの意識が変わることもある。善光寺の屋台巡行では県立大学の学生さんが、また鬼無里でも大学生の皆さんが屋台を引くなど、各地域で学生が参加する取り組みが進んでいる。しかし、担い手が高齢化し、継承が難しい状況にあるため、ながの観光コンベンションビューローと連携し、イベント情報の発信を強化し、関心を持っていただける方が増えるよう、地域の皆さんの意見を聞きながら取り組んでいる。</p>
10	<p>イベントに若い方を動員しただけでは、継承につながらないと思う。防災ワークショップに若い方が参加した取り組みのように、参加者が自分ごととして考えるような、若い方にも関心を持ってもらう切り口で若い方の参加を募ったらよいのではないか。</p>	<p>今回の防災ワークショップに若い方の参加は多いが、全体の参加者数は少なかったという課題がある。次の世代を担う方々に、まちづくりに参加していただく意識を常に持ちながら活動を進めていきたい。</p>